

2018

6

vol.537

あなたがいて、わたし、がある。

ゆうあい

昭和83年1月16日第三種郵便物認可
6月号/平成30年6月1日発行

<http://www.yuai.jp>

特集

「新任職員紹介」



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

NEW LEADER

施設長に就任して

所長

おしま屋／サポートはまなす

細谷 武浩



この度、平成30年4月1日付で「おしま屋」「サポートはまなす」の所長に就任いたしました。

昭和59年4月、ゆうあい養護学校高等部寄宿舎に就任以来、34年の月日が経ちましたが、今日まで10を超える施設や事業所に勤めてきました。そこで関わさせていただいた利用者の方々や様々な助言や叱咤激励をいただいた諸先輩、同僚、後輩との繋がりが、今の私の自信と財産です。

入職当時は、とにかく一日も早く目の前の利用者の方に認められたい一心で、毎日がむしゃらに向き合ってきました。私が気になって仕方が

ない利用者の方に全く相手にされず、最初は先輩の真似をしても上手くゆかず、悩み苦しみ「自分はこの仕事に向いていないのでは…」と諦めかけたときに初めてその方が私の話を聞いてくれたその瞬間、この仕事のおもしろさに填まってしまい、気がつけば今日に至っています。

侑愛会は障がいを持つ人々のニーズに応じて様々な事業を展開してきました。その結果、現在は個々の障がい特性に適した支援ができ、その内容も多彩です。しかし全ての基本は侑愛会の勤務モットーのひとつである「限りない愛情」だと私は思います。

利用者の方は側に寄り添い、一緒に考えることで必ず支援のヒントを教えてくれます。それを学び取ることができるのが資質を持った職員です。そのような職員を育成することが、これまで多くの事業所を経験してきた私の責務だと思っています。

「おしま屋」「サポートはまなす」は高齢化対策や日中活動の再構築など、多くの課題がありますが、様々な意見やアイディアを取り入れ、さらに若い職員の方に期待しながら、私も微力ながら一緒に汗をかき、一致団結してこの難題に取り組む所存です。

施設長

おしま菌床きのこセンター

三山 美由紀



この度、平成30年4月1日付けで「おしま菌床きのこセンター」の施設長に就任いたしました。

私は、平成9年、当施設の前身である「ワークショップはこだて第二分場」から、しいたけの栽培指導や開設に向けてのお手伝いをし、平成11年4月の開設と共に「おしま菌床きのこセンター」に入職しました。開設から数えて20年目の春を迎えていました。

おしま菌床きのこセンターは「働く場」の必要性から生まれてきた経緯があります。元気な青年達に働く喜びを知って欲しいと新しく取り組ん

だしいたけ栽培でしたが、開設当初は、300キロのしいたけに四苦八苦、街灯を頼りに夜遅くまで採っていました。あれから20年経ち、今では年間で生しいたけを180トン出荷しています。道庁の調査では北海道第三位の成績で大規模生産者に位置するほどに成長しました。利用する方もわずか10名のスタートでしたが、今年度は定員から4名多い64名と侑ハウス、星が丘寮の利用者の皆さんを合わせ総勢120名が利用されています。知的に障がいがある在宅の方、施設やグループホームで暮らす方、自閉症の方など、働く場を求める利用者の皆さんのために施設や事業所が協力、連携してきた結果だと思います。

開設以来、できるだけ多くの選択を行い利用する方々の自立に役立つ事を目標に掲げてきました。これからも利用者さんに働きがいのある場を提供するために、施設間で連携、協力し、利用する方々の声や願いを様々な形にして実践して来たことを忘れず、おしま菌床きのこセンターを継続していく事を職員一同、初心に返り、励みたいと思っています。これからも、よろしくお願ひ致します。

園長

七重浜こども園

杉本 聖子



私は幼少期、野原を駆け回り、草花を摘み、大きな栗の木に登る毎日を過ごしました。夕方になるとがっかりして家に帰ったのを覚えています。幼稚園まで30分の道を通っていましたが、初めて一人で歩かなければならなかつた朝、心細くて「今日だけ」と母にお願いし、途中まで付いてもらいました。その安心感で、次の日からは一人で歩くことができました。折り紙やお絵かき、遊戯室のトランポリン、鉄棒に縄跳びを結んで作るブランコ。スキップが「上手だね」と褒められた思い出、やりたいことを尊重してもらった記憶が蘇ります。高校生になり進路に直面した

時、子どもと関わる仕事への思いが溢れ、専門的な勉強ができるとしても嬉しく思いました。子育ての為、仕事から離れ、「もう一度働きたい」という気持ちでいた時に縁あって働くことになったのが七重浜保育園です。3歳以上児とは朝から夕方まで外遊び。泥団子作りに、野球ごっこやドッジボール。七重浜海水浴場や西桔梗の野球場まで散歩しました。3歳未満児とは、個々の生活のリズムを大切にしながら信頼関係を築くことを心がけました。子どもや保護者とどう関わればよいか迷った時は経験豊富な先生が相談にのってくれ、一人ひとりの子どもの姿そのままを大事にすることを学ばせてもらいました。

4月から七重浜こども園の園長という大きなバトンを受け取り、その重みに負けそうになることもあります。しかし、今まで支えてもらった分を今度は私が返す番です。子ども、保護者、職員の思いに耳を傾け、言葉にし、失敗しながらも何度も繰り返し挑戦し続けることができたように、毎日を大切に、丁寧に過ごしていきたいと思っています。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園

www.yuai.jp

2018

新任職員紹介



おしま学園

大山 莉奈
Oyama
Rina前田 紘希
Maeda
Genki金澤 喜代香
Kanazawa
Kiyoka

今は仕事内容を覚えることで精いっぱいですが、仕事の中で自分自身も障がいについて学んでいく、障がいに対する正しい理解を社会に発信していくことができる職員になりたいです。

障がいのある身内がおり、小さい時から障がいのある方々と関わることが多くありました。そこで障がいのある方々に興味を持ち、この仕事をしたいと思いました。

気持ちにゆとりを持って、利用する方を始め色々な方と関わっていきたいです。初心を忘れず、楽しく仕事が出来るよう心がけていきます。

侑ハウス

青山 海人
Aoyama
Kaito大野みなみ
Ono
Minami

姉が重度の障がいを持ち、それが理由で心ない言葉を掛けられる辛さを知っているので、そういう人たちの助けになりたいです。

歳の離れている妹がいて、妹と接しているうちに子どもがいるところで働きたいと思いました。また、人のためになる仕事をしてみたいと思いました。

つくしんば学級

工藤 帆渚
Kudo
Honami中村 衣里
Nakamura
Eri

子どもやご家族から必要とされるような職員になりたいです。感謝の気持ちを忘れず、一人ひとりにしっかりと向き合い、心に寄り添うことを大切に日々頑張っていきたいです。

人と関わる事は元々好きでしたが、仕事を通じて沢山の方々の支援ができることに魅力を感じたのが、きっかけです。

明生園

森山 実奈
Moriyama
Mina沢野 唯人
Sawano
Yuiyo

高校卒業後、病院で看護助手の仕事に就いていました。患者さんは高齢の方が多く、関わりを持つうちに介護の仕事に興味を持ちました。

短期大学在学中、障がいのある方達とのサークル活動を通して楽しさややりがいを感じ、利用する方のために自分ができることを考え、支えていきたいと思ったのがきっかけです。

山村 美央
Yamamura
Mio

安心して仕事を任せられるような職員になっていきます。将来、相談支援の道にも進みたいので、努力を忘れず日々邁進していきます。

山川 史泰
Yamakawa
Humiyasu

安心して仕事を任せられるような職員にならなければなりません。将来、相談支援の道にも進みたいので、努力を忘れず日々邁進していきます。

新生園

奈良 正治
Nara
Masaharu佐藤 拓馬
Sato
Takuma

中学生の頃、祖母が脳梗塞で倒れた事があり、入院する等と介護に携わる事があったため、仕事でも生活する事を困難とする方々を助ける仕事ができればと思ったからです。

利用する方1人ひとりに合せた支援を行い、その方が生活しやすい環境を作りたいです。また、利用する方々に信頼して頂くことができる職員になりたいです。

濱中 達也
Hamanaka
Tatsuya小橋 一貴
Kobashi
Kazuki

祖父が亡くなる前、「おまえは人に優しい子だから、これからも人に優しく、自分に厳しく生きていくんんだぞ」と言われたのがきっかけで、福祉の仕事を始めました。

常に自分と周りの人々の笑顔が絶えない空間を作れる職員になりたいです。また、常に学習しステップアップし続け、周りからも認められる人物になりたいです。

平成30年4月2日辞令交付式が行われました。

今年も新任職員の方へ、2項目のアンケートを配布し、答えていただきました。その中から、こちらで選ばせて頂いたものを掲載しています。

1 福祉の仕事をしたいと思ったきっかけは何ですか?

2 どのような職員になりたいですか?

七重浜こども園

中村 友理香
Nakamura
Yurika

ワークショップまるやま荘

奥崎 まなみ
Okuzaki
Manami

小学生の頃から障がいのある方と触れ合う機会が多くありました。その経験が人を笑顔にする仕事をしたいと考えるきっかけになりました。

障がいの特性を学びながら、利用する方の悩みや変化に気付くことができ、思いや感情も理解できるような職員になれるよう努めたいです。

浜分こども園

下国 愛実
Shimokuni
Manami

すてっぷ

櫻井 沙織
Sakurai
Saori白井 道子
Shirai
Michiko

母が知的障がいのある入所施設に勤務していて、小さい頃から利用する皆さんに親切にしてもらつたこと、学校で勤務していた頃に発達障がいの生徒達に出会つたことです。

病院の事務の仕事をしていた時に、人の生活の中で福祉の担う役割が多くあることを感じたところからかと思います。

サポートはまなす

石岡 昂平
Ishioka
Kohei

おしま屋

村林 真希
Murabayashi
Maki白石 瑠夏
Shiraishi
Ruka

今まで看護師として働いてきた中で、後遺症や障がいを持つ方の「ケア」という業務に興味を持ち携わってみたいと考えようになったからです。

母が保育士をしており、幼い頃から近くでその姿を見て、私も将来母のようになりたいと思ったのがきっかけです。

ゆうあい幼稚園

薮越 未歩
Yabukoshi
Miho

子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、教諭としてどんな風に育てほしいのか、しっかりと考えを持ち、保育・教育をしているような職員になりたいです。

いつも笑顔であり続ける先生になりたいです。

石山 瑠菜
Ishiyama
Runa

以前まで、老健施設で長く勤務していました。その際、たくさんのお会いと、笑顔に触れる事ができ、私自身とても嬉しかったので、その気持ちを持ち続けたいと思ったのです。

障がいの福祉についてはまだまだ勉強中ですが、スタッフや利用する方からたくさんのお話を学ばせて頂き、利用する方々の良き理解者の一人として働いていきたいと思っています。

侑愛荘

岩松 翔太
Iwamatsu
Shota前田 まゆみ
Maeda
Mayumi

元々、人と関わる仕事に就きたいと思っており、その時、利用する方との距離の近い福祉関係の仕事が、自分に合っているのではないかと思ったからです。

日々、人と関わる仕事に就きたいと思っており、その時、利用する方が笑顔で毎日を過ごせるように支援が行える職員になりたいと考えています。

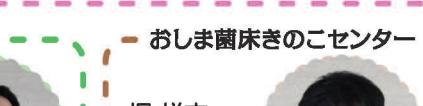
小森 勝義
Komori
Katsuyoshi

ゆうあい会 石川診療所

恩田 礼
Onda
Masashi高村 由佳
Takamura
Yuka

目の前の利用する方々に対しては当然のこと、より広い視点で、地域に対しても自分が何ができるかを考え、実行できる職員でありたいと思っています。

働きに来ている皆さんが、安全に安心して働け、落ち込んでいる作業所へ来るように信頼や安らぎを感じてもらえるような優しい職員になりたいです。

堀 祥充
Hama
Noriyuki

私の妹が福祉関係の仕事をしており、やり甲斐のある仕事に興味を持ちました。施設見学に訪れ、利用する方々が笑顔で元気な姿が印象的で、ここで働きたいと思いました。

堀 祥充
Hori
Yasumitsu



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園

www.yuai.jp